

作成者：若原きなり

作成日：2025年4月8日

ジャケットを羽織れば寒さを感じない日も出てきて、春の訪れを少しずつ感じるようになりました。ただ、日本にはどこにでもある桜はほとんど見かけないため、日本らしい春が恋しくもなります。また、日本では4月から新生活が始まりますが、アメリカでは8月が新年度の始まりのため、4月になったという実感があまり湧かないのも、アメリカならではの感じています。

### 【 Night to Shine 】

「Night to Shine」とは、障がいのある子どもたちが主役となれる特別な一日を作ろうというイベントです。地域の教会が主催し、世界中で開催されています。このイベントでは、地域の障がいを持つ子どもたちを無料でダンスパーティーに招待し、キングやクイーンとして特別な夜を過ごしてもらいます。私はフィンドレー大学で履修している「Introduction to Special Education」の授業を通じてこのイベントを知り、ボランティアとして参加しました。ダンスパーティー自体が初めてだったので緊張しましたが、貴重な経験となりました。イベントは障がいのある子どもたちのためのものでしたが、障がいの有無に関係なく、皆が楽しんでいる温かい雰囲気が印象的でした。流れていた曲の中には、アメリカ人なら誰でも踊れる定番ダンスソングも多くあり、「本当の文化」を知るためには英語だけでは不十分だと痛感しました。日本ではなかなかできない体験ができて、本当に良かったです。

### 【 ラスベガス、グランドキャニオン 】

3月8日から16日までSpring Break（春休み）があり、その期間中に友人3人でラスベガスを訪れました。ラスベガスはカリフォルニア州の隣、ネバダ州にあり、まるで砂漠の中に築かれた都市のようでした。光輝くアメリカの代表的な大都市の一つですが、ニューヨークとはまた異なる魅力がありました。ラスベガスと言えばカジノが有名ですが、空港に到着してすぐ、空港内に多数のカジ



ノ機が設置されていて驚きました。カジノは特別な場所というイメージがありましたが、現地ではすべてのホテルのロビーに広大なカジノがあり、誰でも気軽に楽しめるようになっていました。その手軽さが、人々が思わずお金を使ってしまう理由の一つだと感じました。なお、アメリカではカジノも飲酒や喫煙と同様に21歳以上から許可されています。これから留学を考えている方の中には20歳未満の方もいらっしゃると思いますが、ラスベガスは21歳以上になってから訪れることをおすすめします。一方、フィンドレー大学では毎年「カジノナイト」が開催されており、こちらは20歳以下でも参加可能です。本格的なカジノの雰囲気無料で楽しめるので、ぜひ参加してみてください。（※写真は大学のカジノナイトで撮影したものです）



また、ラスベガスからグランドキャニオンへのバスツアーにも参加しました。冬休みに訪れたヨセミテ国立公園でアメリカの自然の大きさに感動したので、グランドキャニオンも是非行きたいと強く思っていました。実際に訪れたグランドキャニオンは、日本では見ることのできない、巨大な岩が浸食や風化によって作り出された景観で、圧倒されるほどのスケールでした。さらに、グランドキャニオンへの道中でダムも見学しました。日本ではダムといえば森林の中にあることが多いですが、今回見学したダムは岩山の中に作られており、地理的な違いを改めて実感しました。

### 【 Cherry Blossom Festival 】

Bowling Green State Universityで開催された「Cherry Blossom Festival」に、フィンドレー大学の日本グループとして参加しました。当日は300人以上の来場者があり、さまざまな日本文化体験ブースやパフォーマンスで賑わっていました。

私たちは「Genkiキッズ」と「アイドルダンス」の2つのパフォーマンスに参加しました。「Genkiキッズ」は、日本人学生と日本語学習者がアメリカの子どもたちに日本語を教える授業で、今回はこのイベントのために「幸せなら手をたたこう」の練習を重ね、英語と



日本語の両方で子どもたちと歌を披露しました。また、日本の「kawaii文化」を紹介するために、日本人学生と日本語学習者がアイドルダンスを披露しました。女性陣は浴衣を、男性陣はかわいい衣装を身にまとい、観客の皆さんも笑顔で温かく見守ってくれました。さらに、以前フィンドレーにお越しくださったデトロイトの総領事とも再会でき、私がアメリカでどのような活動をしているのか、将来小児科医を目指していることなどもお話する機会をいただきました。日本から遠く離れたアメリカの地方都市で、たくさんの日本人と、日本文化を学んでいる人々が集まり、一つの大きなイベントを作り上げている姿に、改めて感動しました。

本報告書についてご質問、お問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡ください。 [wakaharak@findlay.edu](mailto:wakaharak@findlay.edu)